

米国 自動車部門の調整で生産の拡大ペース鈍化(06年9月鉱工業生産)

発表日：06年10月17日（火）

～ハイテク、航空機部門は好調を維持し全体を下支え～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

鉱工業生産 (Industrial Production and Capacity Utilization)

	鉱工業生産		製造業 (NAICS)							設備稼働率	生産能力
	前月比	前年同月比	製造業 (NAICS)	鉱業	公益	ハイテク 関連	除ハイテク 関連	自動車関連	製造業 (NAICS)		
06/01	▲0.1	(+3.2)	+0.9	+2.3	▲10.0	+0.1	+0.9	+2.6	+80.9	+80.2	+0.2
06/02	+0.4	(+3.1)	▲0.2	+0.7	+5.7	+1.2	▲0.3	▲0.9	+81.1	+79.9	+0.2
06/03	+0.5	(+3.7)	+0.4	▲0.1	+1.7	+1.0	+0.3	+1.5	+81.3	+80.0	+0.2
06/04	+0.8	(+4.6)	+0.9	+1.7	▲1.3	+1.7	+0.9	▲0.3	+81.8	+80.6	+0.2
06/05	+0.1	(+4.4)	▲0.2	+0.5	+1.9	+1.8	▲0.4	▲1.3	+81.7	+80.2	+0.2
06/06	+1.1	(+4.7)	+1.0	+0.9	+2.9	+2.0	+0.7	+3.2	+82.5	+80.8	+0.2
06/07	+0.3	(+5.1)	+0.4	▲0.2	+0.6	+2.1	+0.3	▲5.2	+82.6	+80.9	+0.2
06/08	+0.0	(+4.8)	+0.3	▲0.5	▲0.9	+2.5	+0.1	+1.9	+82.5	+81.0	+0.2
06/09	▲0.6	(+5.6)	▲0.3	+0.7	▲4.4	+1.9	▲0.5	▲2.1	+81.9	+80.6	+0.2

(出所) FRB

(注) 数字は前月比、但しカッコ内は前年同月比。

鉱工業生産は前月比 ▲0.6%と市場予想を 下回った

06年9月の鉱工業生産は前月比▲0.6%とマイナスに転じた。下落幅は市場予想の同▲0.1%を上回った。鉱業がプラスに転じたものの、製造業がマイナスに転じたうえ、公益の下落幅が拡大した。3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率でも+3.6%（前月+6.7%）と鈍化しており鉱工業生産のモメンタムは低下している。

製造業は、自動車の減少により前月比▲0.3%とマイナスに転じた。ただし、7、8月合計で同+0.4%上方改定されていることから、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率でも+4.3%（前月+6.1%）と高い伸びを維持しており、生産は堅調さを維持していると判断される。

稼働率は、生産能力が前月比+0.2%と拡大し、生産が同▲0.6%となったため81.9%と市場予想を下回った（8月分は82.4%から82.5%に上方改定）。製造業稼働率は80.6%と低下した。一方、ハイテク部門の稼働率は80.7%と2001年1月以来初めて80%台を回復した。特にコンピューター、通信機器が80%台半ばとなっており、関連財の生産拡大が期待できる。

拡大した製造業生産 は19業種中6業種 にとどまった

業種別にみると、鉱業は強い需要に加えて前月にハリケーン接近によって落ち込んだ反動によって、前月比+0.8%と増加に転じた。公益は、気温の低下に伴い天然ガスが同▲0.9%、電力が同▲5.2%と下落したため、全体でも同▲4.4%と大幅なマイナスとなった。

製造業は、前月比▲0.3%と失速し、拡大した業種数も19業種中6業種に縮小した。セクター別にみると、自動車関連の生産は、自動車部品が前月比▲1.2%、完成車が同▲3.3%と減少に転じたため、同▲2.1%と2ヵ月ぶりの下落となった。一方、ハイテク

関連は、通信機器が同+2.5%と増加に転じ、コンピューターが同+1.4%と前月と同率となったものの、半導体が同+1.7%と減速したことにより同+1.9%（前月同+2.5%）と拡大ペースが鈍化した。もっとも、過去の数字が上方改定されたこともあり、基調を示す3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では+28.9%と前月の同+27.2%からさらに加速するなど好調さを維持している。

加えて、航空機部門の生産は前月比+0.5%、前年同月比+37.0%と好調に推移している。受注残の大きさから当面この部門の生産は、好調を維持するとみられ生産を下支えしよう。

生産は06年7～9月期以降緩やかなペースで減速する公算

四半期でみると、7～9月期の鉱工業生産は前期比+0.9%と4～6月期の同+1.6%から減速している。製造業生産も同+1.0%と4～6月期の同+1.3%から減速している。今後も、需要の鈍化、在庫の抑制によって2007年前半にかけて緩やかなペースでの拡大が予想される。

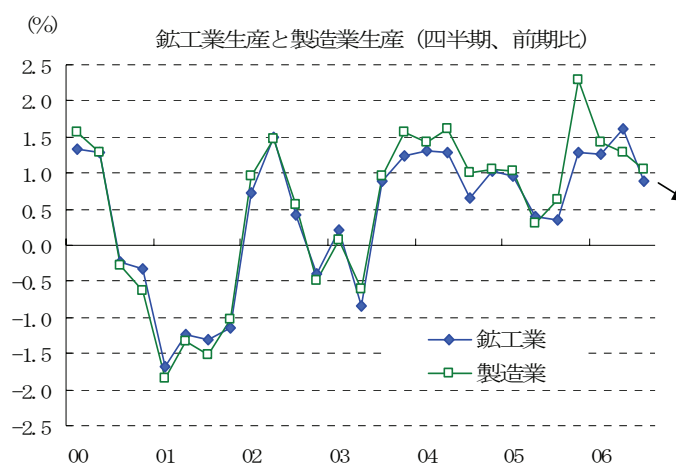
生産に影響を与える需要動向をみると、①コスト削減圧力の強まりによる効率化投資需要の高まり、②稼働率の上昇、③オフィスビル空室率の低下、④コンピューターの更新投資等によって投資需要が強く、設備投資は2007年も好調を維持するとみられる。

一方、個人消費が雇用・所得の増加が続くなか、住宅部門からの資金調達の拡大ペース鈍化やガソリン価格の上昇等により前期比年率+3%の安定的な拡大ペースになると見込まれる。一方、住宅投資はこれまでの金利上昇の影響で2007年1～3月期にかけて減少が続き、家計部門の緩やかなペースでの拡大が予想される。

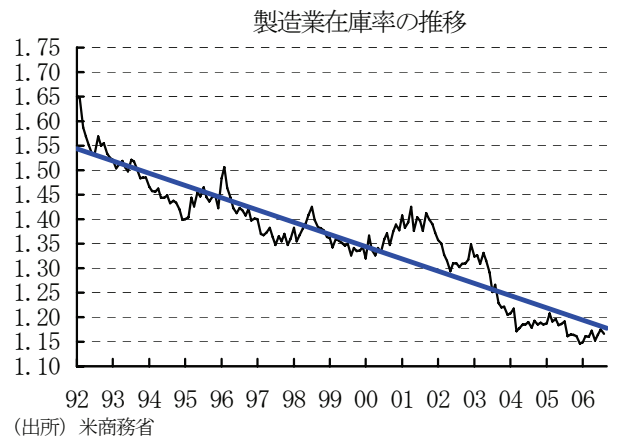
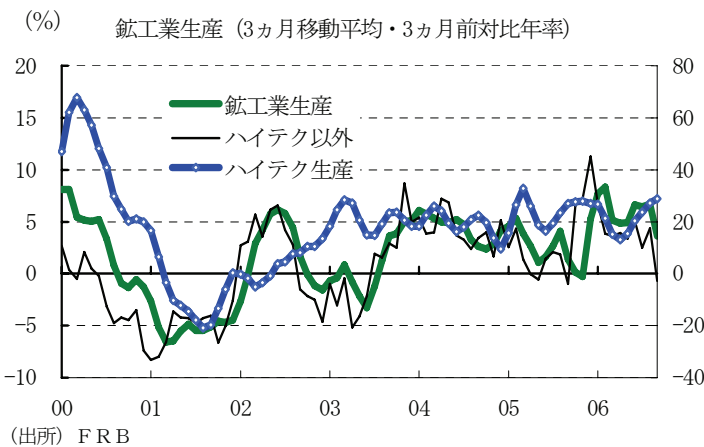
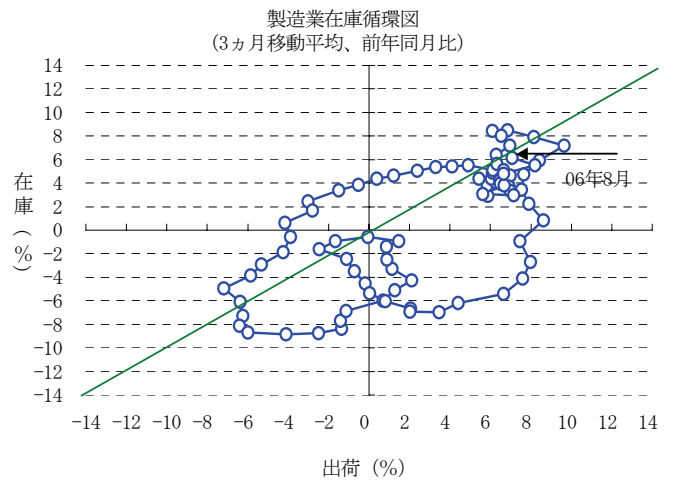
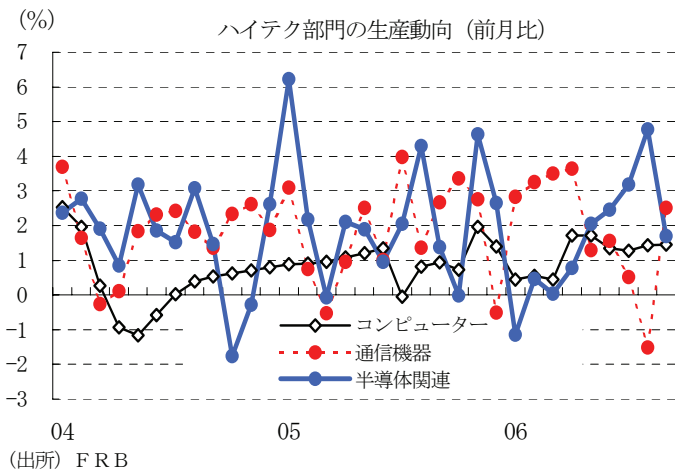
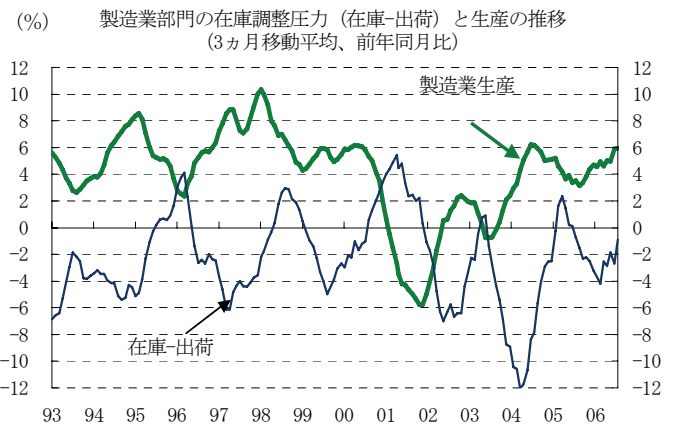
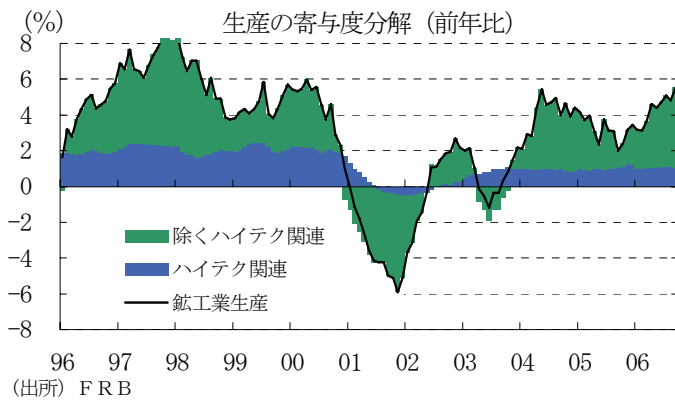
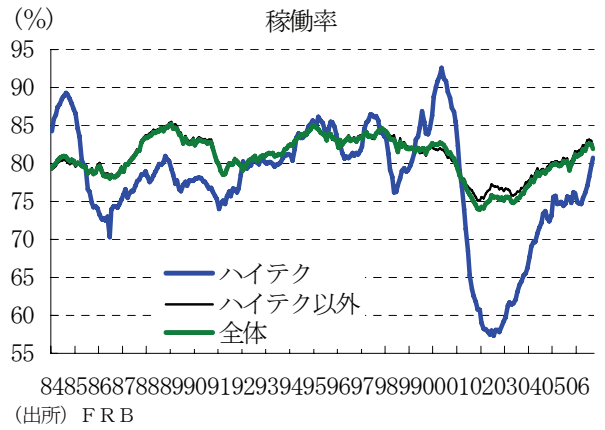
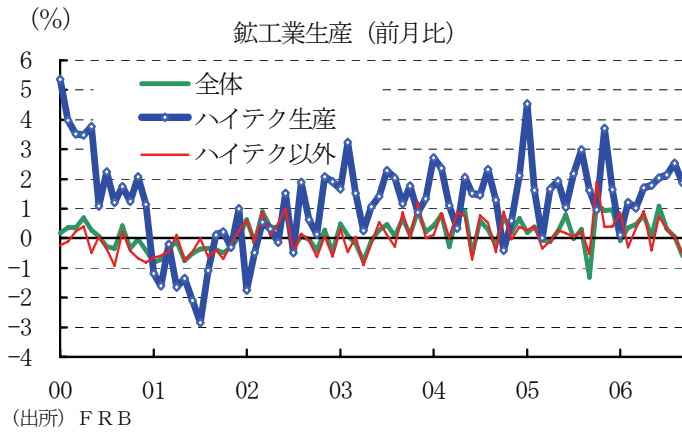
輸出は、ドル安効果によって押し上げられるものの海外景気の減速を背景に2007年前半にかけて緩やかなペースでの拡大が見込まれる。このような需要のもと、自動車や関連産業での在庫の削減が予想されることから、2007年4～6月期にかけて在庫投資は緩やかな拡大にとどまると見込まれる。

製造業生産は前年比で10月以降鈍化すると予想される

製造業部門の在庫調整圧力（3ヵ月移動平均・前年同月比の在庫から出荷の伸び率を引いたもの）をみると、3月に▲4.2%とボトムをつけマイナス幅を縮小している（P3右側の上から2番目のグラフ）。このピーク、ボトムは、製造業生産（3ヵ月移動平均・前年同月比）のボトム、ピークに1～6ヵ月先行することから、製造業生産の前年比伸び率は9月がピークとなり、10月以降鈍化傾向を辿るとみられる。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。